

山本秀雄編

〔屋久島歴史年表〕

(後編)

大正元 一九二二 栗生鰹漁業組合設立。従来の帆船式漁業を機

動船に切りかえる。

大正二 一九二三 中間・原等に機船鰹漁始まる。

山川方面より動力鰹漁船が進出し、無動力船は操業困難になる。

大正三 一九二四 口永良部島新岳、大量の硫黄を噴出。

米植物学者A・H・ウィルソン、屋久島を調査。鰹漁船の動力船建造が試みられる。

大正四 一九二五 二月二十六日、大旋風、栗生小学校三教室倒壊、学童九名死亡。

大正五 一九二六 村内各小学校に農業補習学校、併設。

志戸子に上屋久漁業会が設立される。

この頃、桜井医院(内科・外科・小児科・産科)が設立される(昭和二十一年まで診療)。

大正七 一九二八 粟穂尋常高等小学校設立。

通産省の第二次水力調査が始まる(大正十一年まで)。

大正八 一九二九 鹿児島商船株式会社設立。橘丸が就航。

上屋久村図書館が設立される。

大正九 一九三〇 この頃から甘藷しぼりに水車が利用される。栗生校、新築移転。

国有山林下戻の行政訴訟、原告の敗訴となる。

大正十 一九二二

この頃、村内の鯖節工場が十数軒にのぼる。第一回国勢調査実施。屋久島の人口は上屋久村九千二百三十人、下屋久村五千百九十七人。ウィルソン株を確認。コキ諸、羽生幸吉により岡山県より導入。安房郵便局設置。

鹿児島大林区署が「屋久島国有林経営の大綱」を提示する。

鯖漁船の動力化始まる。

大正十一 一九二三 屋久島国有林のうち約四千三百十四ヘクタールが保護区に指定される。

「屋久島国有林施設計画」策定される。屋久杉生立木禁伐の特記事項がみえる。

屋久島小林区署が上・下の二小林区署に分かれる。

鹿児島電気、屋久島の電気化学工業計画に着手。

金子汽船の日吉丸が住吉で沈没し白坂弥八郎村長が死亡。

大正十三 一九二四 屋久杉原始林が天然記念物に指定される。

下屋久宮林署小杉谷事業所開設。全島に委託林が設定される。

屋久島警察分署が改築される。

大正十四 一九二五 下屋久菅林署安房官行斫伐所の家庭教育場が開設される。

大正十五 一九二六 黒葛原兼成、台湾よりポンカン苗移入、試植。屋久島水力電気(株)、営業開始。岳野川発電所、運転開始。永田・吉田・一湊で、屋久島最初の電氣を使用。

郡役所が廃止され、西之表に熊毛支庁設置。

宮之浦川左岸護岸が八十メートル築造される。

昭和元 一九二六

沿岸林道の開設が始まる。

昭和二 一九二七

自動車の定期運転が始まる。

宮之浦事業所が設置され、白金山において製炭開始。

昭和三 一九二八

国有林伐採跡地への植林事業が始まる。各集落有林が統一される。

昭和五 一九三〇

粟生を終点とする下屋久沿岸林道が開通。

昭和六 一九三一

安房川、宮之浦川に架橋。宮之浦川にコンクリート橋がかけられる。

口永良部島新岳が爆発。五月には民家六棟が倒壊、負傷者が数人出る。

少年の組織として健児団ができる。

昭和七 一九三二

この頃、鯖漁が活況を呈する。

上屋久沿岸林道が完成(島内八十一・六キロメートル開通)

宮之浦川左岸の護岸、延長される。

屋久島電気(株)により製氷所が造られる。

『熊毛郡産業振興志拾ヶ年計画』刊行。

昭和八 一九三三

口永良部島新岳が数回爆発。火災が発生、焼死者八人、負傷者二十五人。焼失家屋三十六

戸。牛十三頭、馬二頭死ぬ。(翌九年一月、七釜地区は潰滅)。

宮之浦婦人消防組が設置される。

ガスランプの集魚灯をバッテリー式に替える。

尾之間、二十五町歩開田。

神山小学校、暴風のため倒壊。

昭和九 一九三四

志戸子に私設消防組が設置される。

永田に公設消防組が設置される。

昭和十 一九三五

一湊消防組が設置される。

熊毛郡の稲作に三化螟虫害、激甚。

この頃、志戸子小学校・吉田小学校は一湊尋常高等小学校に、楠川小学校は宮之浦尋常高等小学校に、それぞれ統合される。

昭和十一 一九三六

神山小学校、新築落成。

宮之浦に上屋久村立青年学校ができる。従来の農業補習学校、青年訓練所は廃止。

昭和十二 一九三七

通産省の第三次水力調査始まる(十六年まで)。

軌条が設置され、宮之浦川吊橋上流に事業所が設けられる。

昭和十三 一九三八

楠川に私設消防組が設置される。

屋久島で水稲早期栽培が奨励される。

この頃十人乗りハイヤーで貨客輸送が始まる。宮之浦川上流に菅林署子弟のための家庭教育場ができる。

田尻岩礁附近に突堤・階段物揚場を築造。

吉田校・志戸子校が再び尋常小学校として独立する。

昭和十五 一九四〇

一湊より十五戸が宮之浦開拓に入植。

昭和十六 一九四一

屋久島から北九州の炭坑へ勤労働員。

昭和十七 一九四二

各小学校、国民学校となる。宮之浦川上流の家庭教育場、宮之浦国民学校岳分校となる。警防後援会が結成される。

男女青年警防班が結成される。宮之浦に警防会館が建設される。

永田・口・永良部島に警防分団詰所、建設。

各集落に婦人防衛班が組織される。

屋久島自動車(有)発足(十二人乗りバス四台、ハイヤー一台)。

製氷工場、経営難で閉鎖。

昭和十八 一九四三

屋久島トラック(有)発足。

小杉谷の家庭教育場が下屋久村立栗穂国民学校太忠岳分教場となる。

昭和十九 一九四四

小杉谷事業所閉鎖、営林事業が停止される。

昭和二十 一九四五

屋久島各地空襲のため麦刈、早期水稻の移植

などが混乱、夜間作業など実施。一湊、大空襲を受ける。永田沖に米潜水艦三隻が浮上し砲撃、裏山に被弾するも災害なし。

木炭運搬の大成丸が佐多沖で難破。

枕崎台風、阿久根台風、襲来。

上屋久森林組合が結成される。

屋久島交通のバスが走る。

食糧運搬船が敵襲を受け、乗組員三名が行方不明。大空襲、栗生・原・安房、各大半焼失。

昭和二十一 一九四六

栗生川吊り橋、架設。

営林事業、再開される。

鹿児島県が屋久島・錦江湾国立公園化のため

の調査を実施。

口・永良部島新岳が噴火。

昭和二十二 一九四七

新学制実流。妙照山本寿寺復興。

県に大隈熊毛開発調査室、設置される。

十島丸が屋久島・三島・鹿児島間に就航。

農地改革が実施される。

小瀬田・楠川・宮浦・志戸子・一湊・吉田・

永田・金岳の各国民学校が独立の新制小学校

として発足。

宮浦・一湊・永田・金岳の四中学校が創設さ

れ、小瀬田に宮浦中学校の分校が置かれる。

昭和二十三 一九四八

農地改革。

国家地方警察屋久島地区警察署が発足。

宮之浦に種子島高等学校屋久島分校(定時制)

が創設され、永田に林業科と家庭科を設置。

中川海運の照国丸、屋久島・種子島間に就航。

小瀬田開拓農業協同組合が設立される。長峰

に四十戸が入植。

屋久島電源開発基礎調査に着手。

昭和二十四 一九四九

日本産業再建技術協会による屋久島の現地調

査が実施される。

種子島高等学校屋久島分校が村立上屋久高等

学校(定時制)として独立。

金岳小学校の分校として湯向分校が発足。

県が屋久島の国立公園化を国会に請願、採択

される。

昭和二十五 一九五〇

原で自家発電。

麦生に農林省蚕糸試験場が設置される。

下屋久村安房出張所が設置される。
上屋久村口永良部島支所が設置される。
村立上屋久高等学校が一湊・永田にも教場を置く(二十七年、募集停止)。

農地委員会が農業委員会に改組される。
上屋久村産業博覧会が開催される。

西之表町に熊毛支所が置かれる。

県の『屋久島電源開発調査書』が刊行される。
報告書『大隈・熊毛地域の実態とその総合開発』が刊行される。

安房に、西之表保健所屋久島出張所が設置される。同じく西之表土木事務所屋久島駐在所が設置される。

八幡小学校、新築落成。

上屋久高等学校が校名を屋久島高等学校と改称し、県立へ移管される。

端穂開拓農協が小瀬田開拓農協から独立。

曙開拓農協が設立される。

屋久島・種子島間の海底電線二十四キロメートル盗難。

口永良部島巡査派出所が警部補派出所に、一湊巡査駐在所が巡査部長派出所に、それぞれ昇格し、小瀬田に巡査派出所が設置される。
ルース台風が襲来。

口永良部島にアリモドキゾウ虫が発生。

村内三農協が合併、下屋久村農協が新発足。

栗生で自家発電。

教育委員会発足。

昭和二十七 一九五二

昭和二十六 一九五一

屋久島電気興業(株)創立。
千尋滝発電所着工。

宮之浦発電所が落成し、小瀬田・楠川・楠川・宮之浦に送電される。

屋久島と錦江湾が国立公園候補地に決定。

三島村建造の三幸丸が就航。

小瀬田開拓農協と曙開拓農協が合併して長峰開拓農協となる。

上・下屋久村が電気製塩事業の促進を働きかける陳情書を提出。

上・下屋久村が屋久島総合開発実施促進の陳情書を提出。

屋久島の産業開発に関する「内田私案」が出る。村営二号発電機が増設され、志戸子地区に送電始まる。

千尋滝発電所が運転開始。

屋久島、離島振興法対象地域に指定される。

屋久島高等学校がピアノを購入。

五月二十一日、屋久島船舶委員会設立、上下両村で一部事業組合成立。

ヤクシマカワゴロモ、県の天然記念物に指定。屋久島スギ原始林、国の特別天然記念物として指定替えされる。

鹿児島県屋久島警察署が発足。
屋久島化学(株)が設立される。

益救神社社殿が再建される。

屋久島警察署が宮之浦より安房に移転、宮之浦警部派出所が新設される。

昭和三十 一九五五

昭和二十九 一九五四

永田に幼児学級が設置される。

国勢調査実施。屋久島の人口、上屋久村一万三千五百九十二人、下屋久村一万二千二百二人。台風22号が襲来。

昭和二十一 一九五六 上・下屋久村合併協議会が発足(のち決裂)。

通産省の第四次水力調査開始(三十四年まで)。長峰地区に送電始まる。

昭和二十二 一九五七 小杉谷に上屋久村役場駐在所が設置される。屋久島高校が全日制普通科・商業科を設置。

長峰開拓農協が上屋久開拓農協と改称される。

『国有林第一次編成経営案』策定。屋久杉の生木は禁伐とする旨の特記事項がなくなり、大面積皆伐が始まる。

昭和二十三 一九五八 一湊第四種漁港、起工。

通産省工業技術院電気試験所の海底送電計画書が出る。

簡易水道が引かれる。

上屋久村、町制を施行し上屋久町となる。

屋久島電気興業が屋久島化学を吸収合併、翌年屋久島電工(株)に。

昭和三十四 一九五九 下屋久村、町制を施行し屋久町となる。

国民年金開始。

昭和三十五 一九六〇 宮之浦港起工。

屋久島電工、安房第一発電所(千二百KW/h)完成。

昭和三十六 一九六一 一湊灯台点灯。

折田汽船「第二十折田丸」就航。

種子・屋久航路に鹿児島商船「屋久島丸」就航。

屋久島林業開発公社発足。

日本澱粉(株)屋久島製糖工場が原に立地。

鹿児島―種子・屋久航路、定期運航開始。

口永良部漁港完成。

安房中学校、失火全焼。

一湊中学校、校舎完成。

屋久島空港(第二種空港)開設。屋久島―鹿児島間および屋久島―種子島間に十六人乗りのヘロン機が就航。

霧島・屋久国立公園に指定。

町営永田診療所開設。

県合同庁舎、安房に設置。

国民宿舎「やくしま荘」営業開始。

町営口永良部診療所開設。

宮之浦港二千トン級バース完成。

上屋久町役場新庁舎完成。

岩川貞次氏「縄文杉」を発見(命名「大岩杉」)。町議会議員定数二十二名に減(上屋久町)。

口永良部島新岳噴火。

一湊漁港、防波堤灯台点灯。

安房大橋完成。

島内一周道路(西部林道)完成。

永田・一湊・宮之浦・志戸子・口永良部島の各漁協を合併、上屋久漁業協同組合となる。

一湊漁港完成。

西部林道、県道に認定。

屋久島電報電話局が完成。

宮之浦大橋完成。

昭和四十二 一九六七

昭和四十三 一九六八

昭和三十七 一九六二

昭和三十八 一九六二

昭和三十九 一九六四

昭和四十 一九六五

昭和四十一 一九六六

昭和四十四 一九六九

第12回全日本登山体育大会、屋久島で開催。
敬老年金制度開始(上屋久町)。

宮浦小学校、校舎・プール完成。

永田港、建設着工。

屋久杉保護に関し林野庁から調査団派遣。

町営栗生僻地診療所を設置。

厚生大臣・専門委員、屋久杉原生林視察。

昭和四十五 一九七〇

屋久島製糖工場、閉鎖。

上屋久町消防団庁舎、完成。

僻地保健福祉館が口永良部島に完成。

小杉谷中学校閉校。

永田小学校校舎完成。

長峰に和牛繁殖育成センター完成。

上屋久町営ゴミ焼却炉完成。

屋久島区検察庁舎完成。

志戸子漁港荷さばき施設完成。

種子・屋久航路に九州商船「わかさ丸」就航。

上屋久町総合グラウンド完成。

口永良部、簡易水道施設完成。

一湊漁港荷さばき施設完成。

小杉谷小学校閉校。

屋久杉保護林七千九百十二ヘクタールに拡大。

常陸宮御夫妻、屋久杉原生林を視察。

尾之間中央公民館完成。

高塚山小屋完成。

一湊小学校校舎完成。

一湊バイパス完成。

町議會議員定数二十名に減(上屋久町)。

昭和四十六 一九七一

昭和四十七 一九七二

上屋久漁協、一湊漁港製氷施設完成。

折田汽船「フェリー屋久島」就航。

自然休養林「ヤクスギランド」オープン。

九州高校総体山岳競技開催。

ヤクシカ狩猟禁止(環境庁認可)。

敬老無料バス券交付制度開始(上屋久町)。

台風23号、栗生・中間を襲う。

国民宿舎「屋久島温泉」完成。

鯛之川大橋完成。

屋久島衛生処理組合の隔離病舎完成。

宮之浦港五千トンバス完成。

国鉄西鹿児島〜大阪間に急行「屋久島号」誕生。

一湊中学校体育館完成。

我神散製薬工場完成。

屋久島空港、拡張工事着工。

永田、国割岳山頂無線中継所設置。

第27回国体山岳競技会、屋久島で開催。

口永良部島、新岳噴火。

鹿児島商船「フェリー第二屋久島丸」就航。

町営船「太陽丸」口永良部―宮之浦間に就航。

栗生小学校城下分校閉校。

学校給食に生牛乳導入される。

安房・尾之間地区、電話自動化。

皇太子御夫妻、御来島。

安房新港、北岸埠頭完成。

新一湊トンネル貫通。

志戸子・吉田小学校を一湊小学校に、楠川小学校を宮浦小学校にそれぞれ統合。

昭和四十八 一九七三

志戸子公民館完成。
国土調査事業始まる。

「白谷雲水峡」が自然休養林となる。

町立八幡幼稚園開園。

中間公民館完成。

楠川公民館完成。

上屋久町、優良町村として全国表彰。

屋久町役場栗生出張所を開設。

自然環境保全審議会、屋久杉原生林を視察。

鈴川橋完成。

原僻地保健福祉館完成。

船行公民館完成。

屋久町営ごみ焼却炉完成。

白蟻病巡回検診行われる。

屋久島空港千五百メートル滑走路が完成し、

運航再開、YS11型機が就航。

屋久島離島開発総合センター完成。

原生自然環境保全地域の指定を受ける。

青少年旅行村(栗生)開村。

屋久島火葬場完成。

島内全域、電話自動化。

春牧僻地保健福祉館完成。

楯川生活館完成。

小瀬田中学校校舎完成。

学校給食センター統合。

台風17号で口永良部島に災害救助法適用。

ポンカン・タンカン集荷施設完成(上屋久町)。

平野公民館完成。

昭和五十二 一九七七

屋久島視聴覚ライブラリー設置。
神山中学校全焼。
湯向生活館完成。

屋久島に百年来の大雪。

屋久島衛生処理組合屎尿処理場が長峰に完成。

両町森林組合併、屋久島森林組合が発足。

日本内外航空、種子・屋久間就航。

屋久町総合センター完成。

安房小学校統合校舎完成。

両町農協合併、屋久島農協が発足。

第一回屋久町民文化祭。

永田小学校プール完成。

一湊公民館完成。

長峰生活館完成。

口永良部島廃棄物処理施設完成。

竜天小学校閉校。

安房統合小学校開校。

湯川橋完成。

白谷山荘(山小屋)完成。

永田、土面川災害。

屋久町体育館完成。

屋久町役場新庁舎完成。

栗生生活館完成。

安房川第二発電所(三万二千KW/h)完成。

永田公民館完成。

中間大橋完成。

安房川橋完成。

唐船峡橋完成。

昭和五十六 一九八一

昭和五十五 一九八〇

小瀬田公民館完成。

永田中学校体育館完成。

一湊海水浴場オープン。

口永良部島火力発電所完成。

永久保生活館完成。

屋久町防災行政無線スタート。

永田橋完成。

屋久島勤労者体育センター完成。

上屋久町歴史民俗資料館完成。

栗生・八幡・神山中学校閉校。

屋久町ゴミ焼却場完成。

湯泊生活館完成。

岳南中学校開校。

屋久島警察署完成。

全国高校総合体育大会(登山)開催。

新栗生橋完成。

岳南中学校、屋内運動場と水泳プール完成。

環境庁長官来島。

松峯生活館、完成。

安房中学校、屋内運動場完成。

大川橋完成。

ロサンゼルスオリンピック新体操で山崎浩子

選手八位入賞、祝賀会。

宮之浦川流水「全国名水百選」に認定。

第一回ジョギング屋久島開催。

神山小学校校舎完成。

八幡小学校屋内運動場完成。

特別養護老人ホーム竜天園完成。

昭和五十七 一九八二

昭和五十八 一九八三

昭和五十九 一九八四

昭和六十 一九八五

昭和六十一 一九八六

昭和六十三 一九八八

安房港五千トンバス完成。

国民宿舎「やくしま荘」閉館。

平成元 一九八九

永田僻地出張診療所、ふるさと創生会館完成。

高速客船ジェットfoil「トッピー」就航。

屋久杉自然館開館。

平成二 一九九〇

「総合的猿害対策への提言」をテーマに国際シンポジウム開催。

老舗恵命堂、新製薬工場完成。

宮之浦港待合所が完成。

上屋久町役場、電算システム導入。

第一回屋久町産業祭開催。

町立永田診療所、医師が常駐に。

金岳小中学校体育館(僻地集会所)が完成。

新城之川橋完成。

第一回屋久島環境文化懇談会開催。

環境庁長官来島。

屋久町立栗生診療所、新築移転。

口永良部島僻地出張診療所が完成。

新高塚小屋完成。

屋久町漁協、安房港内に製氷冷蔵施設完成。

高速船「トッピー2」就航。

屋久島山系でJR山岳連盟全国登山大会開催。

大型船「フェリー屋久島2」就航。

「屋久島環境文化財団」設立。

鹿児島地方法務局屋久島出張所が開所。

屋久町、国際交流の少年大使(十五名)渡英。

「屋久島憲章」が制定される。

屋久島、「世界自然遺産リスト」への登載決定。

平成五 一九九三

平成四 一九九二

平成三 一九九一

平成六

一九九四 上屋久町地域福祉センター「縄文の苑」完成。
金岳中学校新校舎完成。

上屋久町、大分県前津江村と友好盟約調印。
屋久町、熊本県菊陽町と姉妹都市盟約調印。

「日本のスギ」シンポジウム開催。

平成七

一九九五 宮之浦市街地に街路灯設置。

上屋久営林署、森林環境保全センターへ改組。
口永良部島一周林道開通。

「屋久島の森シンポジウム」開催。

「日米草の根交流サミット大会」地域交流会を
開催。

屋久町漁協、農林水産大臣賞受賞。

ヤクスギランドに電話ボックス設置。

「石楠花の森公園」開園(栗生)。

ジェットフォイル「トッピー」安房港就航。

電算住民情報システム稼働。

平成八

一九九六

縄文杉に展望デッキ完成。

白谷雲水峡で森林環境整備協力金を導入。

「屋久島環境文化村センター」開館。

環境省「世界遺産センター」開館(安房)。

台風6号直撃(屋久町の被害総額四億千三百
万円)

「屋久島環境文化研修センター」開館。

屋久町総合福祉センター「こまどり館」開館。

全国水環境保全市町村連絡協議会、全国大会

およびシンポジウムを開催。

平成九

一九九七

屋久町堆肥センター完成。

上屋久町、高齢者訪問宅配給食サービスを開
始する。

上屋久町「漁民の森」植樹祭。

永田「かめんこ留学」スタート。

上屋久町営船「フェリー太陽」就航。

第十回「巨木を語ろう全国フォーラム」開催。

台風19号通過(屋久町の被害総額二億九千九
百万円)。

屋久町「空き缶等散乱防止条例」施行。

上屋久町、電気自動車導入。

アリモドキゾウムシ・イモゾウムシ初発生。

「にじいろ通信かみやく」開局。

第13回全国離島交流ゲートボール大会開催。

屋久島国際シンポジウム開催。

日本ウミガメ会議、開催。

世界遺産国際ユースフォーラム開催。

屋久町「ぼんたん館」・営農支援センター開館。

口永良部島独居老人八世帯にTV電話設置。

「屋久島クリーンセンター」竣工。

屋久島広域連合発足。

世界自然遺産フォーラム開催。

クリーンエネルギー自動車フォーラム開催。

吉田コミュニティセンター「ふれあい館」完成。

皇太子殿下、同妃殿下御来島。

「世界自然遺産会議」開催。

上屋久町、青森県浪岡町と友好盟約調印。

平成十二

二〇〇〇

平成十一

一九九八

平成十

一九九八